朝日町教育センターだより　平成27年3月発行

Plan Do See

「スカイツリーからみえたもの」　朝日中学校　校長　村田　博史

２０１４年１１月１７日。地上６３４ｍ、世界一高いタワー「東京スカイツリー」。

「○○と□は高いところが好き」とよく言われるが、その天望回廊から超過密都市東京（旧武蔵国）周辺の３６０°の大パノラマを満喫することができた。反面、真下を見下ろすと目が眩んでしまう不思議な空間であった。展望デッキで飲むコーヒーは格別である。入館まで２時間以上も待った甲斐があった。独り言ならぬ「イイィナ、ムーサンよ」と洒落にもならぬ親父ギャグを言ってしまう。数多くのショップ、水族館、プラネタリーム等、老若男女の楽しみがぎっしり詰まったこの高層建造物には、世界最高水準であろう数々の先端技術、膨大な人々の英知と苦労が集大成されていると思うと圧倒されそうであった。「凄すぎる．．．！」。

写真や映像で見るのと違って、興奮と感動に身が応える。やはり「見ることは、信ずること」は真であるけれど、実際に体験して初めて分かる何かがある。五感をフルに使うからなのか。４５０ｍの上空から見下ろす光景は、下界で見る景色と明らかに違う。別世界である。「俯瞰する」とは正にこのことか。３Ｄではなく４Ｄの視点で物事をみることに新鮮さを覚えてしまう。本質を見抜くには広い視野で観察しなければならないとつくづく感じる。

今、校長室に飾ってあるJAXAの川口淳一郎さんから頂いた色紙の中の言葉「はやぶさ高い塔を建てよ」に目をやると、なぜかスカイツリーの思い出とリンクしてしまう。教育現場で、未来を担う子供たちを預かる教師の役割は何かと。鮮やかに彩られたこの超新名所への直接的なかかわりは、確かに薄い気がする。しかし、目に見えないその基礎工事にかかわる土台づくりに、存在意義があるのではないか。高層なビルほど、より深くまで地下を掘る必要であると言われるではないか。どんな風雪や揺れにも耐えうるために、礎は材料から方法の選択まで吟味され、様々な要素が地上にも地下にも有機的に結びつけられているはずだ。

自分自身振り返ると、教育に携わる者として基礎的・初歩的部分のコーディネータとして、ディレクターとして、その役割を誰よりも誇りをもって演じてきたのだろうか。そして、より素晴らしい建物、より高い建物を完成させることができるように「基礎・基本」を強固なものにし、子供たちが将来にわたって世界に羽ばたく役者となることを切に願いながら、一人一人を見つめしっかり育てる責務を十分果たしてきたのだろうか。何よりも夢をもち続け、目標をもって挑戦する子供たちが、自己実現できるように惜しみない力添えが出来る大人でありたいと思う今日この頃である。

「体験することで」　さみさと小学校　教諭　上野　裕美

家庭科での調理実習。教室では見られないほどきらきら目を輝かせるすてきな子供たちの姿に出会いました。「食生活を振り返ろう」の学習のときに、家庭での食事や給食に関わる方々の思いに触れたり自分で調理したりすることで、子供たちは「食べる」ことと「つくる」ことのつながりを実感し、つくってくださる人への感謝の気持ちを高めていました。「上手くできてうれしい。」「もっといろいろな物をつくってみたい。」「つくる人の大変さが分かったので、感謝して食べたい。」という子供の姿から、改めて「体験すること」の大切さを感じました。

最近の子供たちは、「面倒くさい」「つまらなさそう」等、行動する前にあきらめてしまうことが多い傾向にあります。しかし、「やってみること」で、興味・関心が高まり、自分の可能性も広げられます。その体験の中で、子供たちは自分を振り返り考えることができ、周りの人々の気持ちにも気付いていくでしょう。「好きこそ物の上手なれ」という言葉がありますが、「～したい」という気持ちをもつと子供たちは、物事に向かって前向きにチャレンジしていきます。体験こそが大きな力となると、今までの様々な活動から感じてきました。

私は今まで、子供たちの輝いている場面にたくさん出会い、その時間を共有できたことを幸せだと思っています。子供たちが「～したい」という気持ちをもてるよう、限られた時間の中で「体験をどう仕組むか」は、課題でありますが、無限の可能性をもっている子供たちのよさを引き出せるように、「笑顔・感謝・協働」を大切に前向きに取り組んでいきたいです。そして、「行動を起こせば変わる」ことを子供たちに伝えていきたいと思っています。

研修の紹介　その2

「学び合う生徒の育成を目指して」

朝日中学校　研究主任　上島　忍

今年度は、研修主題「主体的に活動し、共に学び合う生徒の育成」のもと、副題を「共にかかわり合いながら、考えを深める活動を生かして」と設定しました。その解明のために研究組織を「道徳部会」と「特別活動部会」の２部会に分け、学年別部会研修を中心にして取り組んできました。昨年度まで取り組んできた集団づくりのノウハウを生かし、共にかかわり合いながら考えを深めることができるよう、体験的な活動や話合い活動などの学習過程を工夫したり、終末に学習成果を確認したりすることで、より思考を深め、主体的に活動する生徒の育成を目指してきました。また、研究を推進するに当たり、昨年度に引き続き、畿央大学教授の島恒生先生にご指導を受けながら、研究・研修に取り組んできました。全教員が授業を公開し、事後研修としてワークショップ型の部会研修会を実施することで、授業力を高め、本研修主題の解明に向けて積極的に実践してきました。生徒同士がかかわり合う場を多く設定し、自分の思いを話したりお互いの考えに耳を傾けたりすることで、生徒はさらに自分の考えを深めることができました。

次年度は、話合いにとどまらず、深めた考えを基に、企画・運営・実践など、さらに主体的に活動できる生徒の育成を目指していきたいと考えています。

朝日町教育委員会派遣内地留学

○　研修期間　平成26年9月1日～10月31日
○　研修機関　富山県総合教育センター教育相談部

「これからの特別支援教育」を学んで

あさひ野小学校　　教諭　　鍋島　朋子

私が初めて赴任した勤務先は、富山県立にいかわ養護学校（現　富山県立にいかわ総合支援学校）でした。ここで過ごした11年間で、小学部、中学部、高等部、訪問教育を担当しました。現在は、養護学校での経験を地域の小学校で苦戦している子供たちの指導に役立てたいと思いながら、小学校に勤務しています。小学校では、通常の学級、通級による指導、知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級を担当してきました。また、昨年度からは特別支援教育コーディネーターを担当しています。

これまでは、目の前の、校内の実践にばかり目が向いていたのですが、平成24年7月に、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育を構築していくという方向性が示され、そのために特別支援教育を推進していくことが重要であるという報告が出されたことを知りました。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」という長い名前の報告は内容も長く、読み込むには、まとまった時間が必要だと思っていました。今回、富山県総合教育センターでの研修の機会を得て、この報告の詳細を学びたいと思いました。

私が学ぶだけにとどまらず、校内の先生方に分かりやすく伝える資料（シート）を作成し、それを生かして校内研修を行い、特別支援コーディネーターとして校内の特別支援教育を推進していきたいと考えました。

この研修で、報告の内容から、就学相談や就学先決定の在り方をはじめ、障害のある子供が十分に支援を受けられるための合理的配慮や多様な学びの場の整備等、学校現場に直結する具体的な事柄が示されていることを学びました。これまで、大まかにしか捉えていなかった「これからの特別支援教育」について、キーワードごとに整理したことで、その関係性に気付くことができました。「これからの特別支援教育」の方向性を確認できたことは、自分の立場での「特別支援教育の推進」に確かな一歩を踏み出す自信になりました。

これまでとは違う視点から、特別支援教育を考えることができ、現代社会のかかえる様々な問題（少子化、不登校等）との関連にも思いをめぐらせることができました。

先日、作成したシートを使って校内研修を行いました。研修の成果を校内の先生方に還元できる機会をいただいたことをうれしく思いました。作成したシートについては、分かりやすさ、伝わりやすさという点において、まだまだ改善の余地があります。校内で活用しながら、先生方の意見を取り入れ、よりよいものにしていきたいと思います。また、ケース会議や日頃の職員室での情報交換の場で、気になる子供の見立てのポイントや対応を考える時の裏付けとしても活用していきたいと思います。

朝日町の小学校勤務10年の節目に、このような研修の機会をいただき感謝しています。学ぶことの楽しさや喜びを改めて感じることができた2か月でした。これからも地道に自分の立場での特別支援教育を推進していきたいと思いますので、御指導よろしくお願いしたします。

朝日町教育委員会派遣内地留学

○　研修期間　平成26年9月２５日～１２月２４日
○　研修機関　富山大学人間発達科学部

「内地留学を終えて」

朝日中学校　　教諭　　木下　智玄

９月２５日から１２月２４日までの３ヶ月間、現場を離れ、富山大学人間発達科学部へ内地留学研修の機会をいただきました。文部科学省は平成２２年に、２０２０年まで実施すべき事項として、「全国の児童・生徒一人一人の情報端末による教育の本格展開」について策定しました。いよいよ、児童・生徒一人一人が情報端末を利用した授業や活動する時代がすぐそこまで迫っています。「タブレット端末やICT機器を使って子供たちのために何ができるだろうか」との思いが、今回の私の研修のきっかけでした。

この内地留学研修で、情報を収集し、学習していく中で、自分の未熟さを思い知らされました。まず、予想以上に、先進校ではICT機器の導入がなされ、授業を視察した学校は全教室に電子黒板が配備され、中には生徒一人一台のタブレット端末が整備されている学校もありました。

一方で、指導教官からの「ただ新しい機器を導入することが、『教育の情報化』ではない。今ある機器をしっかりと有効に活用することが大切である」との助言がきっかけで、すでに現場に導入されながら、うまく活用されてこなかった電子黒板の活用方法についても見直し、そのよさに気付くこともできました。タブレット端末の導入に関係なく、電子黒板等の既存の機器の効果的な活用こそICT活用の真髄であり、タブレット端末が導入された時によりよい活用ができるものであるということを実感しました。

また、授業でICTを活用する時には、次の２点が大切であると感じました。一つ目は、授業規律の徹底です。どんなに素晴らしい機器が授業に入ってこようとも、今はみんなで活動し合う場面なのか、活動を止めて教師の説明を聞く場なのか等、しっかりと指導者の指示を徹底することが大切だと改めて思いました。また、タブレット端末等が入ってくると、机上には既存の教科書やノート等に加えて、さらに使用する学習道具が増えるため、机上の整理、授業中の机上の置き場所のルールづくりと徹底が必要であると思いました。二つ目は、ICTが導入されても、自分の考えを表現するために「話す」「書く」といった従来の授業で大切にしてきた活動はますます重要になるということです。ICTは、あくまでも児童・生徒たちの学習理解を助けるための道具・手段でしかないということです。そのためにも、どのように機器を活用し、どのような効果があったかといった日々の実践を蓄積して残し、共有し合うことも大切だと思います。

これから、教育の現場には新しい機器が入ってきます。それらの機器を朝日町の児童・生徒のためにどのように活用したらよいかについて、教員間はもとより、朝日町教育委員会や朝日町教育センター等の関係機関とも連携・協力しながら考えていきたいと思います。

＜　町研修会から　＞

小学校外国語活動の授業研究

１１月１３日（木）

さみさと小学校　５年生　外国語活動
指導助言：東部教育事務所　指導主事　　庭田　順子　　先生

外国語活動の授業の進め方と学級担任・ＡＬＴの効果的な役割分担について研修を図る小学校外国語活動授業研究を行いました。

授業のはじめのソングタイムでは、子供たちは歌に合わせて振り付けをして、リズムよく英語の歌を歌っていました。また、絵カードを見ての発音やカード取りゲーム、ワークシートを使ったリスニングなどの活動にも積極的に取り組み、英語に慣れ親しんでいました。

事後研修でも話題に出ましたが、担任がコミュニケーションのモデルとなって話したり、子供の発話をほめたりする場面がよく見られました。外国語の音声や表現に慣れ親しみながらコミュニケーション能力を養うこと、このことが外国語活動のねらいであり、この授業でも子供たちは楽しみながら英語に親しんでいました。また、ＡＬＴの問いかけに答えるために、集中してリスニングにも取り組んでいました。

担任とＡＬＴの役割が適切に行われ、子供たちが意欲をもって英語に慣れ親しんでいた授業でした。若手の先生方の参加も多く、参考になったことと思います。

情報モラル授業・研修会

１１月２０日（木）

対象：あさひ野・さみさと小５・６年生、朝日中学校１～３年生、小中学校教職員
講師：安心ネットづくり促進協議会　北川　浩美　先生

町内の小中学生と教職員の情報モラルの向上を図ることをねらい、情報モラル授業・研修会を行いました。

小学生を対象とした教室では、無料ゲームのアイテムの購入の際のトラブルやお得な情報にアクセス　してしまうワンクリック詐欺、書き込みによる個人情報の流出など、ネット上の危険について指導していただきました。町内の小学生は、携帯・スマホは持っていないようですが、ネットにはゲーム機、iPodなどからも接続できます。ここで教えていただいたことを生かして、トラブル防止に努めてほしいと思います。

中学生を対象とした教室では、ネット上での写真画像や動画の発信、無料通話アプリを通したトラブルについて、実際の事例を通して指導していただきました。これらのトラブルはどれも社会問題となっています。このようなトラブルに巻き込まれることのないようＳＮＳを利用する際の知識とモラルを持ってほしいと願います。

＜朝日町合同調査員会から＞

郷土教育教材開発研究調査員会

◎成果

○　郷土を学ぶ研修会（現地学習会：8/20）の実施

・　資料作成、講師担当

○　３・４年生社会科資料「わたしたちの朝日町」

・　校正と発刊

○　「学年別校外学習一覧」

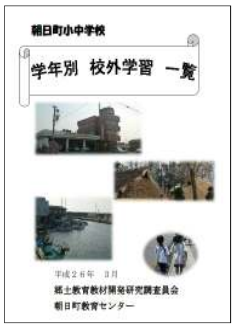
・　校正、資料追加と発刊（３月配布予定）

▼課題

▼　郷土教材を活用した授業実践の成果を町内教職員に広めるとともに、授業での活用事例を示すなどして、郷土教材の活用を推進することが必要である。

▼「朝日町の歴史」は平成元年度に初版を発行し、前回は平成20年度に改訂を行っているが、町の発展に伴い改訂が必要である。

現地学習会



情報教育研究調査員会

◎成果

○　情報教育研修会（8/5）の実施

・　電子黒板機能付きプロジェクター、iPadの活用

○　情報モラル授業・研修会(11/20）の実施

・　個人情報の管理や危険なサイトの存在、ＳＮＳにかかわるトラブルなどについて

▼課題

▼　授業におけるICT活用に関する研修の充実を図る。

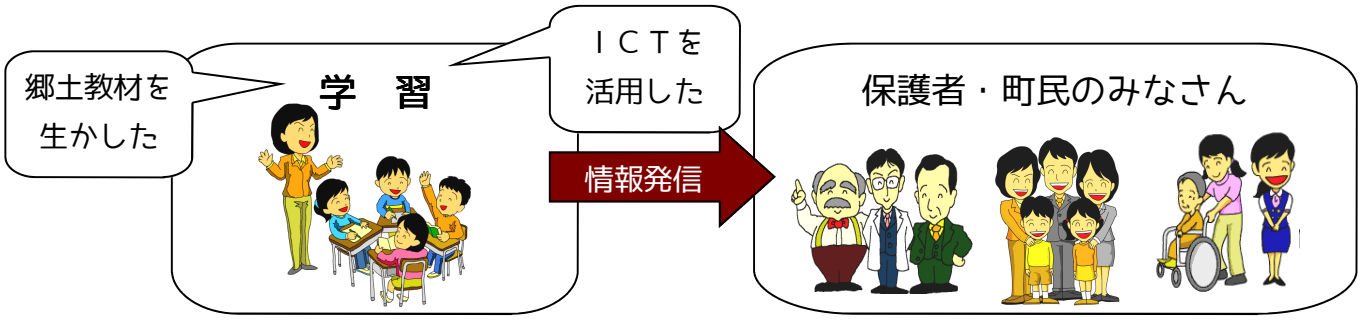
▼　映像編集など、教職員のニーズに応える研修会を企画・実施する。

▼　児童生徒の情報モラル、教職員のＳＮＳへの理解をる授業・研修会の充実に努める。

電子黒板

iPad

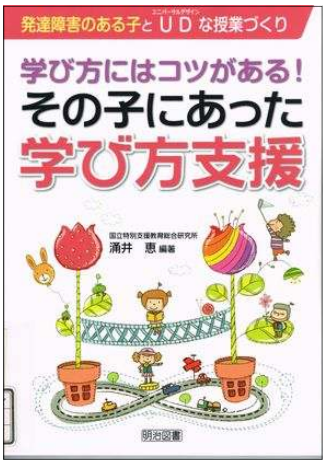
▼合同調査員会の次年度の課題　○　地域教材の活用を通して郷土愛を育む学習やＩＣＴを活用した学習などの情報をホームページやコミュニティー放送等を通じて町民のみなさんに発信し、児童生徒の学習活動へのご理解をいただくとともに、地域と学校の連携につなげていきたいと思います。



センターの新刊図書、教育雑誌、ＤＶＤの案内

☆　貸し出しをしていますので、ご利用ください。

湧井　恵先生（編著）
ユニバーサルデザインな授業づくり



青山　新吾先生（監修）
視点を変えると教室が変わる

ＤＶＤ

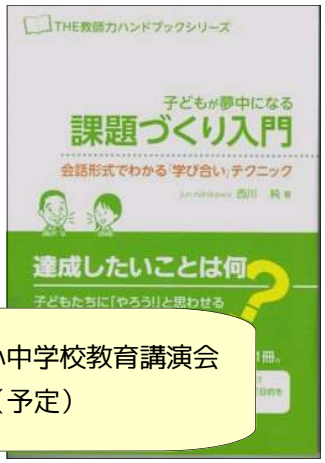
事例をもとにしたトラブル防止のための手立て

ＤＶＤ

西川　純先生（著）
学び合いを活用した学力向上の手立て

平成２７年度　朝日町小中学校教育講演会
講師　西川　純先生（予定）

西川　純先生（著）
課題づくりの基礎基本



赤坂　真二先生（編著）
学級を最高のチームにするには最高のスタートから

挑戦する人の生き方が描かれています。

ＤＶＤ

人との結びつきやコミュニケーションの大切さを考えることができます。

ＤＶＤ

堀　裕嗣先生（編）
【若手教師編】今だからこそ、成長するために必要な教師力！！

▼　他にも、「THE 教師力アップ」（H27.2月新刊）、ＤＶＤ「おじゃる丸～①マロもだいすき月光町と②マロのゆかいな世界」が入りましたのでご利用ください。

□□　平成２６年度朝日町教育センター運営委員等　■■

（◎は委員長）

ご協力、ありがとうございました。

□教育センター運営委員

校 長 会	代表	村田　博史
学　　校	代表	吉田　尚史
小 教 研	代表	松原　隆志
教 頭 会	代表	水島　祐司
教務主任会	代表	大森　　敦

□朝日町学校教育運営研修会企画運営委員

◎松原　隆志　○竹内　康彦
○谷口　正浩　○大森　　敦
○能登　千春

□朝日町小中学校児童生徒作品展実行委員

◎吉田　尚史　○森田　隆司
○石浦　嘉寛　○梅津　　陽
○朝見　亜紀子

□朝日町研究主任会委員

○上島　　忍　○水島真寿美
○兵庫　秀典

□郷土教育教材開発研究調査員

◎水島　祐司　○梨木　宏子
○横山　亜希子○上嶋　早織
○川村　直弘

□情報教育研究調査員

◎内山　真之　○青嶋　　浩
○宮野　哲章　○木下　智玄
○山田　智徳　○中島　　亮
○高澤　伸治

□朝日町学力向上推進委員

◎竹内　康彦　○三井　　昭
○水島真寿美　○兵庫　秀典
○中嶋　裕也　○山田　智徳
○舟本　麻衣

□朝日町外国語活動推進委員

○谷口　正浩　○梅澤　健一
○大森　祐子　○中嶋　裕也

ABCDEFG
HIJKLMN

☆授業で使える防災教材（小中学生用）が入りました。

● 地震災害
「緊急地震速報がなったらどうする？」
● 津波災害など
※ＤＶＤ（映像）と指導案、ワークシートで構成されています。

＜編集後記＞

３月１４日、北陸新幹線が開業します。首都圏との距離も縮まり、観光やビジネスでの交流に県民は大きな期待をもっています。教育では、グローバル化に対応した英語教育改革実施計画、道徳教育の改善・充実（特別の教科　道徳）が進められており、先生方をはじめ保護者、町民の皆さんの関心も高いと思います。

平成２７年度より、全国で小学校教員、中学校英語教員を対象とした英語指導力向上研修が実施されますが、朝日町教育センターも英語・道徳教育の研修の充実を図り、教育の変化に対応していきたいと思います。

今年度も残りわずかとなりましたが、先生方のご協力と温かいご支援のおかげで、センター事業を終えることができました。ありがとうございました。

□□朝日町教育センター職員■■

所　　長	永 井　孝 之
所長代理	村 田　博 史
所　　員	長谷川　　亙
助　　手	大 菅　栄 子

【発行：朝日町教育センター】
〒939-0743
富山県下新川郡朝日町道下１０５３－１
TEL／FAX　　0765-83-0279
E-Mail　　asahi-ec@tym.ed.jp
ウェブサイト　http://www.asahi-c.tym.ed.jp/